

■Major League Fishing Japan Kasumi BMC Pro Series ルール

＜エントリーおよび参加資格＞

- ・ ボーターは 18 歳以上で、なおかつ 2 級小型船舶操縦士以上の資格を有している者に出場資格を与える。
- ・ コ・アングラー登録希望者に年齢制限は設けないが、18 歳未満の希望者は保護者の同意書を提出すること。
- ・ エントリーを受付後、オフィシャルと選手の個別面接を実施する場合もある。
- ・ すべての出場選手は「スマートスケール」および「スマートレスキュー」アプリを自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。また「スマートスケール」の登録名は本名、ニックネームは本名を英語表記で行うこと。
- ・ MLF Japan が主催するイベント（以下、イベント）では船体全長 18 フィート以上、エンジン 175hps 以上のボートを使用すること。
- ・ 使用するボートは必ず船舶保険（対人、対物、搭乗者への補償があるもの）に加入していることを条件とする。
- ・ 出場選手は円滑かつ効率的なコミュニケーションを確保するため、携帯電話番号とメールアドレスをオフィシャルに提供する。登録情報に変更が生じた際は、速やかに報告すること。
- ・ イベントで撮影されたすべての写真および動画は MLF Japan に帰属する。またイベント中、カメラマンまたは固定カメラによる撮影を行う。撮影された素材は MLF Japan のライブ配信、ウェブサイト、SNS 各種、および印刷物などに使用する。
- ・ イベント全戦でライブ配信を実施する（一部、外部業者に委託する場合もある）。したがって選手個人によるライブ配信はこれを認めない。また、YouTube 等 SNS 用動画の撮影を行いたい場合は、事前にオフィシャルの承諾を得ること。
- ・ 有人カメラが同船する選手は直前に MLF Japan で行うファン投票によって決める。
- ・ すべての出場選手は MLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書（エントリーシート裏面）に署名すること。

MLF Japan Entry Sheet Event	
Name	Mobile Phone
Entry Boater	Co-Angler Partner
Boat & Engine	Engine Belt No.
Tackle Check	
小型船舶操縦士免許	ライブウェル確認
船舶検査証・船舶検査手帳	ギルスイッチ
船舶保険証書(写し)	エンジンベルト
赤バケツ	ライフジャケット(校印)
法定備品	救命浮環
	救命胴衣
	スマートスケールアプリ
	信号紅炎
	新利根漁協遊漁券
	箱

※右欄の□に印でチェックする。該当しない項目には斜線を入れる。

エントリーシート（表）

トーナメントアングラーの誓い
私は Major League Fishing Japan が主催するイベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。
・主催、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。
・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告します。
・フェアな環境下で釣果を競い合うイベント本旨に従い、他メンバーに不当な要請をしません。
・アングラーの共通資源であるフィールドを守るため、環境保護に努めます。
・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑義が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。
本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が判明したイベントに限らず、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額を直ちに返金します。また、違反内容によっては、刑事訴訟や別途の損害賠償請求を受ける可能性があります。また、違反内容によっては、本イベントに参加します。
年 月 日 (自署)

エントリーシート（裏）

<スポーツマンシップ>

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラ（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒涇的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 受付および表彰式の際、トーナメントジャージの着用を義務とする。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、デッキに落とさない、リリースまでライブウェルに一時的にキープする、などの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スタッフ、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。

<エントリー方法>

- ① スマートスケールアプリとスマートレスキューアプリを自身のスマートフォンにインストールする。
- ② インストール後、それぞれ必要事項をすべて記載し登録する。

■注意

- ・画像は必ず上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしのもので登録
- ・ニックネームは本名を英語表記

例) 大山太郎 → Taro Oyama

- ③ 入会金、年会費をスマートスケールアプリより決済する。

※2025 シーズンから継続して出場する選手は、入会金は不要。ただし団体申請は 2026 シーズンの、自身が出場する団体で登録が必要

※必ず入会金および年会費は期日までに決済を行うこと

※エントリー期間は 2025 年 12 月 1 日～2026 年 2 月 28 日までとする

<各イベントへのエントリー>

- ① スマートスケールから、当該イベントにエントリーする。
- ② エントリーフィーをクレジット決済する。

<連絡事項>

- ◆ オフィシャルからの連絡事項は、スマートスケールアプリから発信するため、こまめに確認すること。

<エントリーフィー>

- ◆ MLF Japan に出場する選手は下記のエントリーフィーを支払わなくてはならない。
 - ボーター
入会金：¥44,000
年会費：¥66,000
エントリーフィー（2days）：¥38,500
 - コ・アングラー
入会金：¥44,000
年会費：¥33,000
エントリーフィー（2days）：¥16,500
- ※金額はいずれも消費税込み。
※入会金は1年以上のブランク（未登録）があった場合、再登録する際に改めて¥44,000の支払いが必要。
- ◆ 入会金および年会費は「Smart Scale」アプリからの一括での決済とするが、各イベントのエントリーフィーはそれぞれ指定した期日までの決済も可とする（一括での決済も可）。
- ◆ イベント当日、スマートレスキューアプリの「1day プラン」に加入し、端末のGPS位置情報は「ON」にしておくこと

<MLF Japan イベント開催時>

◆ タックルチェック

- 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、ペアと相互チェック後、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
- イベント出場時に着用するライフジャケットは、桜マーク（国土交通省）がついているものに限る。

◆ 受付

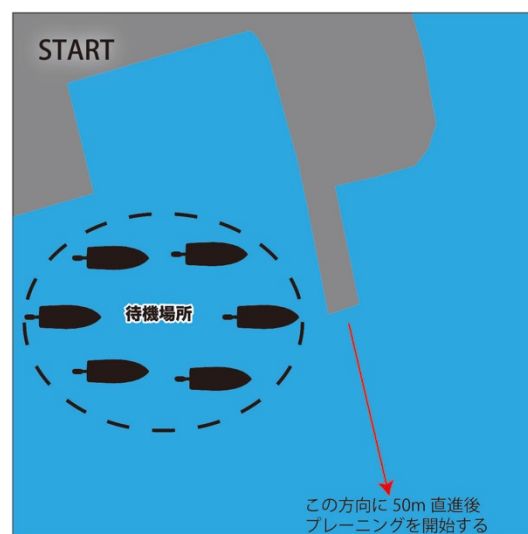
- 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
- 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
- エントリーシートを提出する。

◆ ミーティング

- 規定の時間にミーティングを行う。ミーティング時は必ず、トーナメントジャージを着用して出席すること（雨天時および極寒時はジャケットの着用を認める）。
- ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。

◆ スタート

- 事前の抽選結果に基づき、番号の若いほうから順にスタートとする。2 日目は初日のウエイトが高い方から順にスタートする（同ウエイトがいた場合は初日のフライト順の逆）。
- オフィシャルに自分のスタート順と名前をコールされたらフライトプレート掲げて合図を送り、OK が出たあとスタートする。
- スタートは大山スロープ東端にある突堤より、南方向にアイドリングで 50m（目安）直進後、プレーニングを開始すること（下図参照）。
- スタート順が遅い選手は邪魔にならないよう、突堤よりも西側で待機すること。



◆ 帰着

- 突堤先端から南に 50m の延長線をゴールラインとし、東側から進入すること。小野川方面からの帰着時も同様に、東側からの進入をもって帰着とする（下図）。
- 帰着時は混雑が予想されるため、船列に並んでいれば帰着時間を過ぎてもペナルティは課さない。ただし、プレーニングを解いていることを条件とする。
- 帰着は突堤先端に待機するオフィシャルに、自身のフライトプレート掲げ、「OK」の返答をもって完了とする。



- ランチング後、先にスマートスケールの QR コード読み込みを行う。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、帰着は完了していても失格・スコア取り消しとなるため注意。
- 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。またこの際も、必ずトーナメントジャージを着用すること。

<イベントルール>

- イベント開催前日はオフリミットとし、競技エリア内での情報集および釣りを禁止する。
- MLF Japan に出場する選手は、トーナメントジャージの着用を必須とする。トーナメントジャージには MLF Japan が規定する 2 種のロゴを規定サイズに則って掲出すること。掲出は胸より上の正面で、できるだけ目立つ位置に入れること。



MLF Japan ロゴ



Kasumi BMC Pro Series ロゴ

- MLF Japan Kasumi BMC Pro Series はボーターとコ・アングラーによるペア戦とする。
- ボーターとコ・アングラーのペア決めは抽選を実施する。抽選はイベント開催 2 週前の金曜日に行い、その模様をライブ配信する。
- 抽選の結果によっては前回開催時と同じペアになることもあるが、再抽選は行わないものとする。
- 各イベントのエントリー状況によって著しくコ・アングラーが足りない場合、年間ランキングが下位の選手から順に抽選でコ・アングラーが同船とする。年間ランキングが上位の選手はソロでの出場となる（無人カメラを設置）。

例) ボーターが 40 人、コ・アングラーが 15 人のエントリーだった場合

→年間ランキング 1～25 位までの選手は単独出場

→年間ランキング 26～40 位までの選手は抽選で決まったコ・アングラーが同船

- オブザーバー、または雑誌等外部メディアの取材が同船する際は、ボーター単独での出場とし、無人カメラを設置する。なお、カメラマンおよびオブザーバーによる、釣りに関する一切の手助けを禁止する。ランディングネットを手渡すことも禁止。ただし、スマートスケールに登録するための写真撮影は、これを認める。
- イベントのスコアについて、ボーターの成績はコ・アングラーと釣ったバス 3 匹までとし、上位 5 名を各イベントの表彰対象とする。また、そのスコアはボーターの年間成績にも反映される。

- コ・アングラーは自身が釣ったバス 3 匹までの総重量を各イベントのスコアとし、上位 5 名を表彰対象とする。また、そのスコアはコ・アングラーの年間成績にも反映する。
- 年間ランキング (Angler of the Year) はボーター、コ・アングラーともにそれぞれの年間 5 戦の総重量によって決める。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは 3 分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10 分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。なお、緊急事態でない限り、移動後の計測は認めない。
- ボーターは常に安全な速度と操船を心がけること。同船のコ・アングラーに対しても、安全を第一とした配慮を行うこと。
- コ・アングラーは競技中、常にボーターの指示に従うこと。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁 118 にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日 7:00am 時点の美浦村大山を基準とし、天気予報アプリ各種を総合的に参考にして、オフィシャルで協議のうえ開催の可否を決定する。なお、Day2 開催日の予報で天候が回復することが予想される場合、期間短縮による開催とする場合もある。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- 霞ヶ浦、北浦、利根川水系を守るための活動の一環として、遊漁承認証の購入を義務付ける。なお、バスプロサポート事務所で当日購入することも可能だが、その場合は前日までの連絡を必須とする。
- 直前にコ・アングラーのキャンセルがあった場合、ボーターのみでの出場を認める。ただしキャンセルが分かった時点で速やかにオフィシャルに報告すること。またその場合、ボーターは無人カメラを設置する。
- 直前にボーターのキャンセルがあった場合、ペアのコ・アングラーは無人カメラが同船する選手のうち、年間ランキングが最も下位の者に同船とする。
- 競技時間中、コ・アングラーの体調不良等で棄権となった場合、ボーターは速やかに当該選手を本部まで送り届けたあと、競技の続行を認める。その際、無人カメラを設置する。なお、棄権したコ・アングラーはその時点でのスコアを成績とする。
- ボーターの体調不良等による棄権となった際はコ・アングラーも棄権とし、その時点でのスコアを成績とする。
- エンジントラブル等により競技続行不可能となった場合、ボーター、コ・アングラーと

もに棄権（失格）とする。

- ボーターはコ・アングラーに、上限¥5,000 までの燃料代を請求できる。ただし精算に関して、オフィシャルは一切関与しない。

<競技ルール>

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。ただし、ソロ出場とペア出場の公平性を保つため、ラインディングネットは必ず魚を掛けた本人が自身の手で取って使用すること。ペアの相手が掛けた魚のランディングを援助することは禁止とする。また、ライブ配信のカメラマンや外部メディアの取材担当者などからランディングネットを手渡されることも禁止とする。
- 資源保護の観点から、スコアブルバス（※キーパーサイズ）は 300g 以上とする。
- イベントにおいて、ボーター部門はボーターとコ・アングラーが釣ったバス 3 匹までの重量で順位を決める（艇単位での成績）。コ・アングラーは自身が釣ったバス 3 匹までの総重量で順位を決める。
- 釣り方はルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない（アラバマリグはフック 1 本、またはハードベイト 1 個のみ認める）。
- 一度に使用できるロッドは 1 本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- 陸に上がっての釣りは禁止。ただしボートの位置を保持するため、木杵や護岸などに片足をかける行為はこれを認める。
- 本湖から見てひとつめの橋までは、下船して艇を押すことは禁止。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇についてオフィシャルで協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、永久追放とする。またこの場合、過去に獲得した賞金を全額返金する。なお、年利 4 % の利息を付加する。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。
- エンジンまたはエレクトリックモーターを使用したドラッキング（トローリング）は不可。

<検量>

- MLF Japan イベントにおいて、スコアブルバスは 300g 以上とし、その重量未満のバスはスコアとして認めない。
- MLF Japan イベントはデジタルウェイトインとし、スコア集計は「Smart Scale」アプリを使用する。そのため、参加選手は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録名は本名を原則とする。
- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用（規定のロゴ掲出は必須）、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 競技中に釣ったバスはボーター、コ・アングラーにかかわらず、必ず釣った本人が扱うこと。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量で使用するデジタルスケールは持ち上げた状態で電源を入れ、魚を吊るす前にゼロが表示されていることをコ・アングラーまたは無人カメラに 5 秒以上見せること。
- 無人カメラでの出場選手について、検量に関する一連の動作は必ずカメラの前で、映像で確認できるように行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態で、スコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する（①）。さらに規定のメジャーを使用して、魚の全長がわかる写真を撮影する（②）。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する（③）。この撮影は基本的にペアの選手（ボーターが釣った場合はコ・アングラー、またはその逆）が行う。釣った本人は①～③の画像を Smart Scale から申請する。
- デジタルスケールにバスを吊るしたあと、魚体に触れることは如何なる理由があっても厳禁とし、やむをえず触れた場合は最初からやり直すこと。
- デジタルスケールは、必ず本体上部にある取手部分を掴むこと。本体側面を持った状態での撮影はこれを認めない（下図参照）。



- デジタルスケールの故障などにより計測できない場合はライブウェルにキープし、帰着時に本部立ち会いのもと計測を行う。ただしキープについては魚のケアに細心の注意を払うこと。なお、デッドフィッシュはマイナス 500g のペナルティーとする（※デッドフィッシュとはエラが完全に止まっている状態の魚のことを指す）。
- 諸事情により単独出場となった場合、上記に基づく申請を行った後、魚を持った状態で 5 秒間、艇に備え付けたカメラにスコア（デジタルスケールに表示されたウエイト）を見せること。
- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点からライブウェルに一時的にキープする。また、その魚はスマートスケールからの申請が承認されてからリリースすること。なお、リリースは必ず釣った本人が責任をもって行うこと。
- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れてデッキに落ちることのないよう、ライブウェルの上、またはランディングネットを下に構えるなどの配慮をしたうえで一連の行動をとること。
- オフィシャルからの承認が得られるまで、釣ったバスは一時的にライブウェルにキープする。承認が届き次第、当該バスはその場で速やかにリリースすること。
- オフィシャルが釣ったバスの持ち帰りを指示する場合もある。その際はライブウェルでキープし、会場まで移送する。魚のケアには十分配慮すること。なお、デッドフィッシュはマイナス 500g のペナルティーとする（※デッドフィッシュとはエラが完全に止まっている状態の魚のことを指す）。
- リリースする際はガンネルの高さより下で行うこと。バスをひっくり返したり、投げたりする行為はリリース違反とし、ペナルティの対象とする。

＜使用艇に関する注意＞

- 出場選手がイベントで使用する艇は船体全長 18 フィート以上、搭載エンジンは 175hps 以上とする。船舶検査証の記載事項と実際の使用艇に相違がある場合、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない。
- ボーターは出場登録時に、使用艇の船舶免許、船舶検査証、船舶検査手帳、船舶保険証書の写しを提出すること（登録完了後、公式ラインにて連絡）。
- リチウムイオンバッテリーを搭載する際は、「船検承認」を受けられる物に限る。
- リチウムイオンバッテリーを搭載した船を、Day1 終了後、霞ヶ浦トーナメントプレイスに駐艇して帰る場合、船内充電は厳禁とする。船から一旦おろし、指定の場所でメーカー指定のチャージャーを使用して、充電を行うこと。
- 2026 年シーズンは魚探画面の大きさやモニターの枚数、ライブソナーの機種や個数に関する制約は設けないが、本国 MLF の動向や国内情勢も鑑みて、シーズン中でも変更する場合がある。
- 艇を運搬するトレーラーは、ナンバーの取得を必須とする。なお、諸事情により仮ナンバーで出場する際は、イベント開催 3 日前までにオフィシャルへの申請を必須とする。
- 法定備品は必ず積載しておくこと。
- キルスイッチはライフジャケットに装着し、エンジンを使用するときのみセットすること。
- ガソリンについて艇に装備されているタンク以外の携行を認めない。万が一、競技中に燃料が不足した場合、オフィシャルに一報を入れ、承認を得たうえで給油を認める。
- オフィシャルに申請している艇と異なる艇を使用する場合、事前に届出を行うこと。
- 使用する艇には必ず、MLF Japan 規定のエンジンベルトを装着すること。不備があった場合はペナルティを課す。

<成績について>

- スコアブルバスは 300g 以上とし、ボーターの成績は自身とコ・アングラーが釣ったバスのうち、最大 3 匹の総重量によって争う（艇単位）。
- コ・アングラーの成績は、自身が釣ったバス最大 3 匹の総重量によって争う。なお、コ・アングラーが釣ったバスが入れ替えられたとしても、そのバスがコ・アングラー自身の「最大 3 匹」に含まれる場合は有効とする。
- 各イベントにおいてボーター部門、コ・アングラー部門、それぞれ 5 位までを表彰対象とする。
- 年間順位上位 20 名のボーターは MLF Japan Pro Classic にクオリファイできる。なお、辞退する選手が出た場合は繰り上げ出場とする。
- アングラーオブザイヤーを獲得したボーターは、翌年アメリカで開催される MLF TOYOTA Championship に出場できる。なお、辞退が出た場合は繰り上げとする。

<エリアについて>

- 霞ヶ浦全域、北浦全域、および利根川（支流と流入河川を含む）。
- 流入河川の航行は、河口を結んだ線より上流をデッドスローとする。

【釣り禁止場所】

- 4月15日から6月15日まで、すべての粗朶消波工（通称：木ジャカ）の内側は釣りおよび進入禁止。
- 禁漁区、保護水面、湖水面保全保護区、野鳥保護区など、行政、漁業規則等で定められている区間。
- 漁具周辺（魚礁、定置網、養殖イケスなど）。
※至近を航行の際は十分な距離をとり、細心の注意を払うこと。
- ドックおよび漁港の内部は進入も禁止（ただし緊急避難時を除く）。
※堤防の外側や入り口先端の石積み等、特に「禁止」と明記されていない場所での釣りは認めるが、漁業関係者の妨げとならないよう注意。

【釣り禁止エリア】

- 土浦新港（通称：マルト前も禁止エリアに含む）
- 横利根川全域、新川、前川
- 与田浦全域
- 常陸川水門周辺（ブイから水門の間は進入も禁止。また水門開閉時は近寄らないこと）
- 長門川河口水門前より上流から若草大橋まで（千葉県側・北総マリンスロープ周辺）
- 長門川
- 将監川
- 建設省ワンド内

【デッドスローエリア】

- 小野川全域
- 妙岐水道
- 北利根橋（国道51号線）
- 潮来大橋手前20m（霞ヶ浦本湖側）からJR鹿島線の先20m
- JR鹿島線鉄橋～神宮橋
- 息栖大橋（千葉県側を航行）
- 常陸利根川橋
- 霞ヶ浦大橋
- 各流入河川内（霞ヶ浦、北浦、利根川）
※恋瀬川は河口部が浅いため、周囲への配慮を前提にスロー走行可とする。
- 北総マリンスロープ周辺
- 黒部川全域

【スローエリア】

- ・鹿行大橋（アーチ下部のみ）
- ・北浦大橋（アーチ下部のみ）
- ・鰐川大橋

※神宮橋から鰐川大橋間は 7:00 までスロー

- ・洲の野原内の航路

※潮来大橋手前 20m（霞ヶ浦本湖側）から JR 鹿島線の先 20m はデッドスローエリア。

- ・規模の大小を問わず、霞ヶ浦・北浦内の各所に架かっている橋の下を通過する際（※利根川の橋は除く）

【エレキ航行エリア】

- ・堀割川

<橋梁通過時のルールについて>

■スロー通過

- ・鹿行大橋（アーチ下部のみ）
- ・北浦大橋（アーチ下部のみ）
- ・鰐川大橋

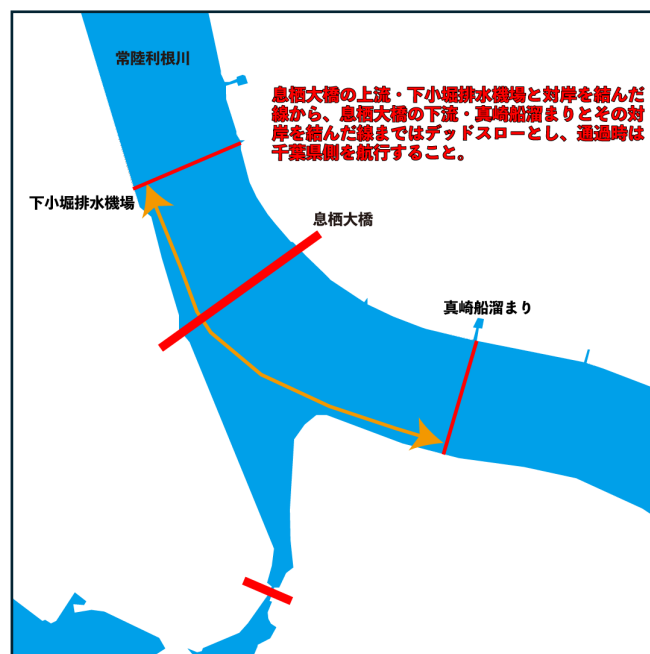
※神宮橋から鰐川大橋間は 7:00 までスロー

■デッドスロー通過

※プレーニングを解除してからデッドスローで航行すること。

- ・JR 鹿島線鉄橋～神宮橋
- ・息栖大橋

※千葉県側を航行すること（図参照）



- ・常陸利根川橋
- ・北利根橋
- ・霞ヶ浦大橋

【柏崎の航行ルールについて】

- ・霞ヶ浦大橋の西詰と柏崎の岬を結んだラインの岸側はスローエリアとする。なお、当該エリア内の菱木川はデッドスロー。



<デッドスローとスローについて>

□デッドスローの定義

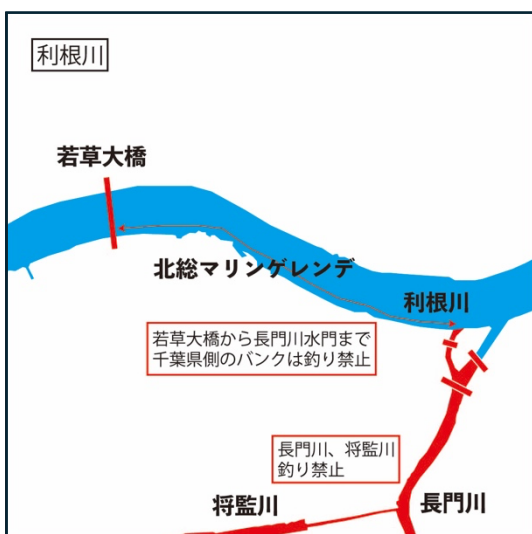
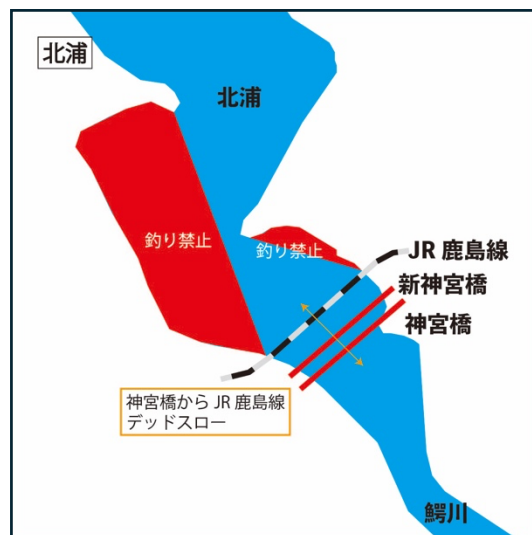
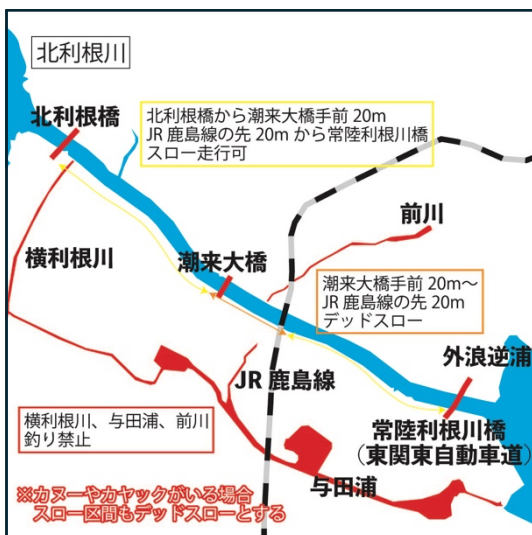
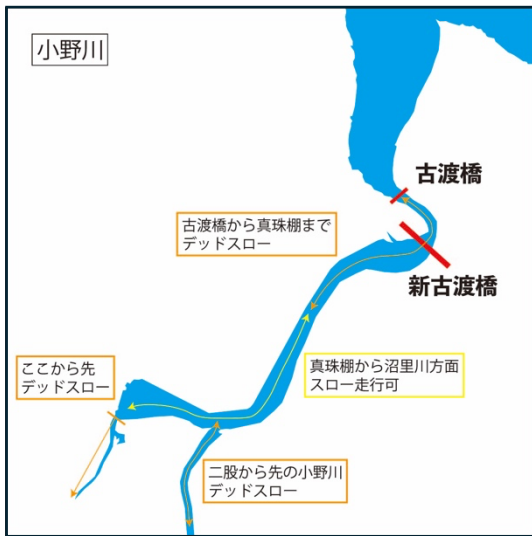
- ・ 10km/h 以下の航行にて、デッドスローエリアの追い越しは禁止

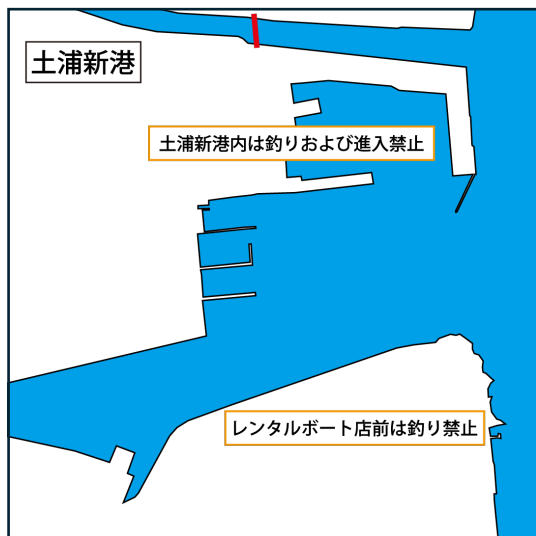
※おかっぱりの釣り人や非動力船がいる場合など、状況に応じて 8km/h まで落とすこと

□スローの定義

- ・ 70km/h 以下とし、スローエリアの追い越しは禁止

<規制エリア詳細>





2025 年 10 月 24 日版

MLF Japan 御中

保護者同意書

保護者の方が、下記をお読みにになり、同意いただける場合はご署名をお願いします。

1. 保護者同意書の内容を理解し、同意のうえで MLF Japan が主催するイベントに参加します。
2. イベント参加にあたり、参加者が十分な健康状態であることを保護者が判断のうえで当日参加します。
3. イベントでは、身体にケガをする恐れがあることを理解します。
4. 主催者の責によらない参加者のケガや他のイベント参加者にケガ等を負わせた場合、MLF Japan 事務局に対して、ケガ等に関する費用や損害の賠償等を請求しません。
5. 主催者では一切の所持品（貴重品含む）を預からず、参加者が保管して管理します。
6. 参加者が疾病、または事故に遭い負傷した場合は、施設スタッフの応急手当や移動を行うことを了承し、治療費や通院費などは自ら負担します。
7. 天候や天災によって直ちにイベントを中止または内容の変更等をしなくてはならない場合があることを理解します。
8. 保護者が参加者に同意事項を遵守させます。
9. イベントの運営を妨げるような行為（他の参加者や自分のケガにつながる危険な行動や暴言、暴力行為など）は致しません。
10. イベントの様態を撮影することがあり、これらの撮影物（写真・動画等）は、MLF Japan の活動報告として公式サイトや SNS、各種印刷物等に使用・掲載することを了承し、当該使用・掲載に問題がある場合は、主催者にその旨を伝えます。

私は「保護者同意書」を読み、内容を理解したうえで、
この条件に自らの意志に基づき同意いたします。

日 付： 年 月 日

参加者氏名： _____

保護者氏名： _____

住 所：〒 _____

電話番号： _____

本同意書にご記入いただいた情報は個人情報保護法に基づき MLF Japan が収集および管理いたします。尚、法令等に基づく開示請求を受けた場合を除く、第三者への開示提供はいたしません。